

# スキヤーン川自然再生(デンマーク)

スキヤーン川は19世紀後半から農地開発のために河川の直線化と排水路の整備が始まり、1968年までに河川の95%が改変され、4000haの農地が耕地に変換された。この計画が及ぼす環境への影響について、復元計画が12年間に及び検討され、民間の利害関係者との交渉が重ねられてきた。1999年6月に、土地取得や、土壌・水・道路上の全ての作業を含む復元作業が、約3500万USドルの予算をもって、「スキヤーン川復元プロジェクト」として始められた。北ヨーロッパ最大の河川復元プロジェクトといわれている。

## ◆ 再生のポイント

- 河川の再蛇行化
- 河川およびその周辺の景観分析
- 動植物相の保護

## ◆ スキヤーン川概要

スキヤーン川は、集水域が約2,500km<sup>2</sup>、北海に面したフィヨルドに注ぐ、デンマーク最大の河川である。川の氾濫原は、かつては自然の採草地として利用され、氾濫によって供給される窒素やリンによって豊かな牧草が生育していた。1960年代に約29kmの蛇行流路は直線化され、約19kmの直線河道となり、堤防が築かれるとともに、氾濫原の地下水位を下げるために排水機場が設置され、4,000haが干拓された。この事業により、黄土の流出や農地の沈下といった問題に加え、農地から流出する土砂や栄養塩によって下流のフィヨルドが汚染されるなどの深刻な影響が生じるようになった。



## ◆ 再生のために実施した事業

### 【河川の再蛇行化】

生物多様性の保全およびマス類の産卵床の再生のためには、流路の再蛇行化が必要であった。直線河道のまま放置し、川が自然に蛇行するには時間が掛かるため、蛇行流路の掘削という手法を採用した。

### 【河川およびその周辺の景観分析】

河川とその周辺の景観の詳細にわたる歴史的、地形学的調査や分析が必要とされた。河川は多量の堆積物運搬とゆるやかな勾配により、改修以前は特徴的な内陸デルタを形成していた。この動的システムは、流域の約半分の区域で再び構築されている。

### 【動植物相の保護】

特にヨーロッパのこの地域において現存する唯一の大規模な野生のサケの個体群であるタイセイヨウサケの生息環境を保全し、種の保護を進める施策が進められている。

出典：財団法人リバーフロント整備センターHP (<http://www.rfc.or.jp/kawa/furusato/moi.html>)  
「リバーフロント2003VOL.48」 p8